

第4回市民検討会議での主な意見

令和7年8月29日開催

■ホール機能について

【文化ホールの現況について】

- ・現状、文化ホールの利用者は少なく、音楽合宿または幼稚園や保育園のお遊戯会の練習が主な利用となっている。尚、お遊戯会の練習は無料となっている。
- ・音楽合宿によって収入が増えていることは間違いない。継続有無を含む今後の方向性については検討が必要。

【ホール整備のあり方について】

- ・ホール整備の目的をどこに置くべきか検討しなければならない。芸術文化や防災など、何のために整備するかによって運営形態が大きく異なる。
- ・ホール機能に関する議論を進める際、考えの方向が文化・防災の二極化となることは避けたい。
- ・ホール機能に関する検討にあたっては、収益よりも利用頻度や利用形態の方が重要と考えている。
- ・ホールの利用実態や重点を置くべき項目、交流複合施設の意義などを踏まえ、人口減少など将来を見据えた新施設のあり方について検討する必要がある。
- ・幅広い視点から、各会議室などホール機能、コンベンション機能全体の規模に関する議論が必要。
- ・ホール機能、コンベンション機能の活用方針については、音楽合宿に限らず、留萌市内の中学校における活動（部活動）なども考えられる。

【市民の参加について】

- ・市民が参加できる参加型の劇場というものが1つの留萌のテーマではないか。
- ・市民と専門家が一体となって検討していくことが成功のポイントになる。

【ホールの席（可動式・固定式）について】

- ・仮にホール機能、コンベンション機能のいずれも防災の観点を鑑みた仕様となる場合は、移動式の席とする必要がある。
- ・社会的、文化的に秀でた根拠が無ければ、現状ホール機能を固定席とすることは難しい。

【維持管理運営について】

- ・新施設のホール機能においては、運用のしやすさを重視した設備とすべき。
- ・高度な音響設備は自前での維持管理運営が難しいことから、簡素にせざるを得ないのではないか。
- ・今後、事務局においては新施設のホール機能などの運営について、専門家の意見を把握・整理・反映いただきたい。

■ 防災機能について

【新施設への避難想定について】

- ・津波災害時における避難について、船場地区及び本町地区の避難先は市営住宅もしくは春日町方面となっているが、井原水産の周辺など新施設への避難対象者は想定より広域にわたるのではないかと。
- ・災害時における新施設への避難・収容人数の想定として正確な数字を整理いただきたい。
- ・新施設は避難所機能に加えて災害対策本部などの機能を確保する必要があることから、小会議室まで避難スペースにすることは難しい。

【整備予定地・施設の形状について】

- ・道の駅へのアクセス性向上の観点から、可能であれば整備位置を道の駅側へ寄せていただきたい。
- ・船場公園やちゃいるも、アクティビティ施設との接続、避難距離の確保を目的とした整備予定地の拡張（ヴィレッジエリアA及び船場公園側）については議論の余地がある。
- ・浸水可能性のあるエリアに敢えて避難施設を整備することに意味がある。
- ・施設形状については1階に空間を持たせることが周辺との連動性向上に繋がると考えている。いずれにしても、2階部分にボリュームを置くことが望ましい。

■ その他

- ・庁内検討会議における協議内容について、可能であれば文書で公開してほしい。
- ・庁内検討会議など全体的な組織図や各検討会議の開催状況に関する資料があれば共有いただきたい。